

沖縄総合事務局 広報誌／第417号

Muribushi

むりぶし
群星

1月2²⁰²⁵月号

January-February

隔月発行



特集

- 事業承継早めの一步
サイレント廃業をなくそう～11月は事業承継啓発月間～

- 1 年頭のご挨拶 内閣府沖縄総合事務局長 三浦 健太郎
- 2 内閣府より 副大臣及び大臣政務官のプロフィール
- 3 連載企画 沖縄歴史の散歩道 Vol.16
- 4 特集 事業承継早めの一步 サイレント廃業をなくそう～ 11 月は事業承継啓発月間～
- 6 仕事の窓 1 公正取引課による調査
～公正取引委員会、内閣府沖縄総合事務局による石油製品小売業者に対する警告等について～
- 7 仕事の窓 2 公正取引課の広報・広聴活動！ ～公正取引委員会と地方有識者との懇談会～
- 8 仕事の窓 3 北谷町まちづくりにおける国有地の活用 ～北谷町立博物館完成～
- 8 仕事の窓 4 高校生が財務大臣となって予算編成！ ～in 中部農林高等学校～
- 9 仕事の窓 5 大学生が将来のために「財政」、「金融」について考える ～in 琉球大学・沖縄国際大学～
- 10 仕事の窓 6 G F P 沖縄の取組 ～沖縄からの農林水産物・食品の輸出促進に向けて～
- 11 仕事の窓 7 食品ロスを減らすために
- 12 仕事の窓 8 沖縄県産黒糖の消費拡大に向けて ～沖縄黒糖を活用した加工黒糖の取組～
- 14 仕事の窓 9 第 50 回沖縄県畜産共進会が開催されました
- 14 仕事の窓 10 沖縄子ども食堂セミナー ～食育で考える子どもたちの未来！～
- 15 仕事の窓 11 沖縄の伝統食品「豆腐よう」について ～協議会会長を訪問しました～
- 15 仕事の窓 12 次世代の子供たちに建設産業の役割と魅力を PR ～第 6 回おきなわ建設フェスタ～
- 16 仕事の窓 13 安全保障貿易管理等説明会などを開催しました
- 17 仕事の窓 14 地域課題を解決！スタートアップ企業向け官民共創型アクセラレーションプログラムのご紹介
- 18 仕事の窓 15 「第 1 回胡屋地区交通結節点整備検討委員会」を開催しました！
- 18 仕事の窓 16 「名護市総合交通ターミナル検討部会」を開催しました！
- 19 仕事の窓 17 将来の船員として活躍を期待！ ～中高生を対象に就業体験・体験学習を実施～
- 20 仕事の窓 18 南部国道事務所 新庁舎で業務開始！～気持ちのよい職場環境で業務効率 UP ～
- 20 お知らせ 沖縄国際洋蘭博覧会 2025 開催のお知らせ



表紙写真

〔農林水産部長賞（写真の部）〕
西表島の天穂



表紙写真は、西表島の水田の様子（令和 6 年 5 月撮影）です。現地調査の際、晴々！とはいかない曇天模様でしたが、草木の切れ間から西表島の自然とたわなに実った稲穂を覗き見ることができ、思わずシャッターを押していました。写真タイトルの「天穂」は、農林水産省とコラボ企画のある TV アニメ「天穂（てんすい）」のサクナヒメから頂戴しました。作中に登場する美味しいうちの米「天穂（あまほぼ）」にそれには負けない美味しいお米を西表島でも作っていることを広く知っていただきたいと思います。「米は力だ！」

農林水産部 石垣島農林水産センター 職員



年頭のご挨拶

内閣府沖縄総合事務局長
三浦 健太郎



令和7年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

昨年は、11月に本島北部の大雨による災害が発生しました。被害を受けられた地域の皆様のご心労やご不便はいかばかりであったかと思います。沖縄総合事務局におきましては、被災した自治体とのホットライン構築、災害対策用機械の派遣などの支援を行ってまいりました。被災地の皆様に一日も早い平穏な日々が訪れますことを心から祈念いたします。

さて、昨年を振り返りますと、物価上昇が賃金上昇を上回る中で、日本経済が緩やかに回復していく一年となりました。沖縄も、全国同様緩やかな経済回復が続いており、特に主要産業である観光業においては、国際航空路線やクルーズ船の再開・新規就航が進展するなど、国内・国外客を合わせた入域観光客数も着実に回復しております。他にも、昨年末には沖縄の泡盛を含む日本の「伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産に登録されるといった喜ばしいニュースもありました。また、本年には北部地域でのテーマパーク開業による新たな観光需要も予測されていることなど、このような明るい材料を端緒として、沖縄全体の更なる振興につながることを期待しております。

現在、令和8年の完成を目指して復元整備を進めている首里城は、沖縄の歴史・文化の象徴でもあり、一日も早い復元が望まれているところです。復元整備に当たっては来園者の皆様に満足していただくため、「見せる復興」をテーマとして取り組んでおり、様々な情報発信や体験型イベントの開催などを行っております。まさに「今」しか見ることのできない、貴重な首里城の姿をご覧いただきたいと思います。

沖縄は観光の他にも、亜熱帯の温暖な気候を生かした農水産物や、地理的不利性の影響を受けにくいIT関連産業など、より一層の発展を予感させる様々な可能性があります。また、世界最高水準の教育研究が行われている沖縄科学技術大学院大学(OIST)では、研究成果を活用したスタートアップ創出に向けた取組が引き続き進められております。更に、今後の跡地利用のモデルケースとなるよう整備が進められている沖縄健康医療拠点においては、教育・医療・福祉が融合した分野横断的な研究が行われることも期待されております。

沖縄総合事務局としましては、国民生活・産業活動の基盤となる社会資本の整備を着実に進めるとともに、沖縄の持つアジアの玄関口に位置する地理的特性などの他県にはない優位性、潜在力を活かしながら、「強い沖縄経済」の実現に向け、日本経済の牽引役となるよう、様々な施策に職員一丸となって取り組んでまいります。県民の皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、希望に満ちた輝かしい一年となりますよう心から祈念し、私の年頭の挨拶とさせていただきます。

副大臣及び大臣政務官のプロフィール

座右の銘

現場目線

趣味

音楽、映画、スポーツ観戦

経歴

平成28年10月 衆議院議員初当選
平成29年10月 衆議院議員二期目当選
令和2年9月 国土交通政務官兼内閣府大臣政務官
令和3年10月 衆議院議員二期目当選
令和3年10月 総務大臣政務官
令和6年10月 衆議院議員四期目当選
令和6年11月 内閣府副大臣
(沖縄及び北方対策)等

令和6年11月13日付けで、沖縄及び北方対策を担当する内閣府副大臣に、鳩山二郎氏が就任しました。



内閣府副大臣に

はと やま じ ろ う
鳩山 二郎

氏が就任

座右の銘

和顔愛語(わげんあいご)

趣味

音楽、ゴルフ

経歴

平成28年7月 参議院議員初当選
令和元年9月 内閣府大臣政務官
令和4年7月 参議院議員二期目当選
令和6年11月 内閣府大臣政務官
(沖縄及び北方対策)等

令和6年11月13日付けで、沖縄及び北方対策を担当する内閣府大臣政務官に、今井絵理子氏が就任しました。



内閣府大臣政務官に

いま い え り こ
今井 絵理子

氏が就任

沖縄歴史の vol.16

散歩道

◆墓を巡る②◆

琉球史研究家の上里隆史氏が沖縄の歴史文化の魅力を本誌上で連載しています。



伊是名玉御殿の石造墓 (伊是名村)

古琉球時代の高い身分の墓は、木造建物に遺骨を入れた木棺を安置する様式が多くみられました。13、14世紀頃の英租王一族を葬った浦添ようどれ(浦添市)は浦添グスク北側の崖下の洞窟を石垣でふさいで墓としていますが、創建当初は洞窟内に建てられた高麗系の灰色瓦が載る木造建物で、その内部に朱漆塗りの木棺を納めるスタイルだったと考えられています。

第二尚氏一族を葬った伊是名玉御殿(伊是名村)も、創建当初(15世紀後半、16世紀前半)は瓦ぶき建物で、その内部には入子状にさらに板ぶき屋根の建物がある特異な構造で、その中に遺骨を納める石厨子があったと記録されています。やがて老朽化により1688年、新たに石造の墓室を造営、場所も現地に移され、現在見るような姿になりました。このように木造建物の墓はメンテナンスの問題もあったことから近世にかけて石造へと改修されたことがわ



浦添ようどれ (浦添市)

ります。

同じく古琉球期の墓に掘込墓があります。自然の洞窟を利用するか崖に横穴を掘って墓室とし、入口は石垣や漆喰でふさぐ方式です。改修後の浦添ようどれや小禄墓(宜野湾市)、第一尚氏を葬った天山陵(那覇市首里)などが挙げられます。15世紀頃の沖縄の墓の様子を伝える『朝鮮王朝実録』の見聞録には「国王の墓は岩を掘り込んで穴をつくり、板戸で閉鎖して墓とし、墓室前には石垣をめぐらせる。庶民はただ崖のくぼみだけを利用する」とあります。

ここで首里城北面の崖に「寄内のガマ」という奇妙な場所があります。洞窟の入口を石垣で閉鎖し門が築かれており、浦添ようどれをはじめとした墓の形式と全く同じです。15世紀前半の石敷の遺構は見つかっていますが墓を示す遺物はありません。伝承ではかつて墓があったとされ、後に廃棄され拝所となったと推定さ

上里 隆史

(うえざと・たかし)

琉球史研究家。内閣府地域活性化伝道師。法政大学沖縄文化研究所研究員。早稲田大学大学院修士課程修了。著書に『琉球という国があった』(福音館書店、2020年)、『海の王国・琉球』(ポニーインク、2018年)、『マンガ沖縄・琉球の歴史』(河出書房新社、2016年)、『尚氏と首里城』(吉川弘文館、2015年)など。NHKドラマ「テンペスト」時代考証や、NHK「ブラタモリ」案内人などメディアでも活躍。



られています。首里城の中核部に近い「墓」ですが、誰を葬っていたかは不明です。前述の記録上でいえば豪華な「王の墓」の形式です。はたしてこの「墓」は誰が眠っていたのでしょうか。

首里城は14世紀、察度王が居住していた伝承があり、高世層理殿という伝説の高楼を建てた話もあります。あるいは察度王統の墓の可能性もありますが、真相は闇の中です。



首里城寄内のガマ遺構 (那覇市)

事業承継早めの一步

サイレント廃業をなくそう～11月は事業承継啓発月間～

沖縄県は、企業の後継者不在率が全国平均の52・1%を上回る65・3%と高く、後継者不在の企業においては、黒字経営のまま、廃業に至ってしまうケースがあります。地域に根付き、人々の生活を支えてきた企業は、地域の活動を支える重要な存在であり、地域の大事な経営資源の消失を防ぐためにも、事業を引き継いでいくことは重要です。

このような後継者不在の状況を改善させるため、沖縄県、独立行政法人中小企業基盤整備機構沖縄事務所、沖縄県事業承継・引継ぎ支援センター、内閣府沖縄総合事務局では、毎年11月を「事業承継啓発月間」と設定し、事業承継に関連したイベント等を集中的に

実施することで、事業承継の重要性を広く周知し、理解を深めていただく取組を実施しています。

近年は後継者不在率が減少傾向にあるものの、地域の小規模事業者が目をも向けてみると、長年続いたお店がどこにも相談できずにひっそりと廃業する、いわゆる「サイレント廃業」が相次いで発生しています。そこで、今年度の事業承継啓発月間は「サイレント廃業をなくそう」をテーマに、様々なイベントを実施しました。



事業承継早めの一歩

11月 事業承継啓発月間

月間イベントを盛り上げる

- 事業承継を後押し
～地域に残したい、愛されるお店を大募集～
- 事業承継に関するTV特別番組およびラジオ番組
- 事業承継関連セミナー・交流会
- 支援機関・士業向けセミナー
- 事業承継座談会with自治体

【主催】
内閣府沖縄総合事務局、沖縄県、(独)中小企業基盤整備機構沖縄事務所、沖縄県事業承継・引継ぎ支援センター

【協力】
沖縄県事業承継ネットワーク

詳細はこちらから

内閣府沖縄総合事務局
経済産業部中小企業課

事業承継を後押し
～地域に残したい、
愛されるお店を大募集～

小規模事業者は、経営者の高齢化による後継者問題を抱えているものの、第三者に相談しない、相談窓口の存在を知らないなど、行政や金融機関の情報・支援が届きにくいという状況にあります。

こうした事業承継支援が届きづらい小規模事業者を発掘し、後継者探しのサポートを行うために、SNS(Instagram、X、Facebook)にて「#未来につながる沖縄の店」の投稿で、地域に愛されるお店を募集しました。沖縄県事業承継・引継ぎ支援センターのSNSや沖縄都市モノレールの中吊り広告等にて投稿を呼びかけ、集まった声をもとに、同センターと連携して、事業承継に悩んでいる事業者の掘り起こしにつなげていきます。



沖縄都市モノレールでも投稿を呼びかけました！

ラジオ番組とのタイアップ

令和6年11月5日のRBCiラジオ「MUSIC SHOW ER Plus」では、「事業承継DAY」サイレント廃業をなくそう」をテーマに、実際に事業承継を経験した事業者とその支援者（沖縄海邦銀行×株式会社クリード沖縄、沖縄銀行×株式会社石川保安商会、琉球銀行×株式会社沖縄ポンプ×有限会社石川電設工業）にご出演いただき、事業承継ストーリーを語っていただきました。事業を継ぐ側と継がれる側のマッチングを、金融機関が中心となって県内支援機関等と連携して行った事例で、双方が「事業を存続させたい！」という熱い思いを持っていたことが事業承継につながったというお話を聞くことができました。ほかにも、事業を承継したお店でラジオカーインタビューも行いました。



ラジオカーインタビュー

女性あつぎ交流会

リスナーの皆さまからは、地元で愛されるお店や、家族との思い出のお店を募集したところ、「ずっと通っていたが、店主が高齢で、サイレント廃業した」「子供のころからあった食堂が閉店してしまったので、すごく残念だった」というメッセージが数多く届き、リスナーの皆さまに事業承継の重要性を知っていただくきっかけにもなりました。



スタジオの様子

令和6年11月20日、女性経営者特有の課題の共有や気軽に相談できるネットワークづくりを目的に、「女性あつぎ交流会」を開催しました。

先輩あつぎ経営者である、有限会社育陶園 代表取締役の高江洲若菜さん、株式会社丸元建設 代表取締役社長の糸数幸恵さんをゲストとしてお招きし、先代の後を継ぐ前から現在まで、

苦労した点やワークライフバランス等、具体的な経験談をお話いただきました。この後のグループシェアタイムでは、同じ女性あつぎという立場で、経営上の悩みだけでなく、ライフステージと女性あつぎとしての悩み、今後のビジョン等について、活発に意見交換が行われました。交流会後、参加者からは「女性目線でリアルな話を聞くことができて良かった」や「今後経営していく上でのヒントを得られた」等の声が寄せられ、交流会の継続を求める声も多く挙がりました。



女性あつぎ交流会

地域事業承継支援に関する座談会

沖縄県事業承継・引継ぎ支援センターでは、商工会等と連携して地域の支援対象者の掘り起こしを行っています。しかしながら、支援センターの存在を知らない小規模事業者も多く、自治体と連携した取組が必要です。

八重瀬町では、八重瀬町農林水産課が中心となり、商工会や金融機関等とともに八重瀬町における事業承継支援について検討する座談会を開催しました。

また、南城市とコザ信用金庫の支援事例を紹介する座談会を開催し、特集記事として新聞に掲載することで、地域における事業承継支援の重要性を広く県民に対しお伝えしました。



事業承継座談会（八重瀬町）

他にも、アットギイベント「ACT: Meetup 那覇」(主催: 中小企業庁)、「継ぎ活講座」(主催: 沖縄県)の開催、事業承継に関するテレビ特別番組放送や新聞特集など、事業承継に必要な知識や情報の提供を行いました。

沖縄総合事務局では今後も関係機関と連携しながら、事業者が事業承継に向けて第一歩を踏み出せるよう、引き続き事業承継支援に取り組んでまいります。

お問合せ先

経済産業部 中小企業課

☎098-860-1755

公正取引課による調査

～公正取引委員会、内閣府沖縄総合事務局による 石油製品小売業者に対する警告等について～



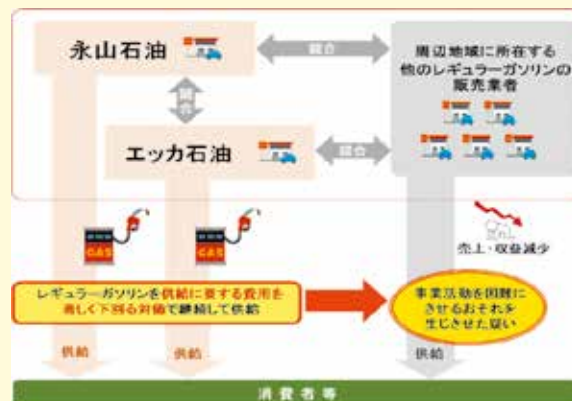
公正取引委員会は、令和6年11月7日、永山石油株式会社及びエッカ石油株式会社（以下、「2社」といいます。）に対し、2社が供給するレギュラーガソリンについて、公正取引委員会及び内閣府沖縄総合事務局（総務部公正取引課）の調査の結果を踏まえ、独占禁止法第19条（同法第2条第9項第3号（不当廉売））の規定に違反するおそれがある行為を行っていたことが認められたことから、今後、同様の行為を行わないよう警告を行いました。

なお、本件は沖縄で初の不当廉売の公表事案であり、また、沖縄に本店を有する事業者に対する独占禁止法事件としては18年ぶりの公表事案です。

更に、警告を行った2社の給油所周辺地域において、レギュラーガソリンの供給において不当廉売につながるおそれがある行為を行っていた他の石油製品小売業者2社（5給油所）に対して、注意を行いました。

警告の概要

永山石油株式会社及びエッカ石油株式会社の2社は、それぞれ沖縄県沖縄市及び同県中頭郡北中城村に所在する給油所（永山石油3給油所、エッカ石油1給油所）において、令和6年2月1日から同年6月30日までのうちの一定期間、レギュラーガソリンについて、その供給に要する費用を著しく下回る対価で継続して供給し、当該給油所の周辺地域に所在する他のレギュラーガソリンの販売業者の事業活動を困難にさせるおそれを生じさせた疑いがあります。



警告の概要説明図

記者会見の様子



令和6年11月7日 記者会見で説明する様子

（左から）公正取引委員会事務局総局審査局 公正競争監視室長

沖縄総合事務局総務部 公正取引課長

沖縄総合事務局総務部 公正取引課 審査専門官（主査）

〔場所〕 沖縄総合事務局庁舎



「どっくん」
公正取引委員会公式マスコットキャラクター



詳しくはこちらから

総務部公正取引課では、独占禁止法に違反する行為の調査のほか、未然防止のため、事業者からの相談に応じたり、事業者団体などに向けた講習会も行っています。

お問合せ先

総務部 公正取引課 ☎ 098-866-0049

公正取引課の広報・広聴活動！ ～公正取引委員会と地方有識者との懇談会～

今号では、公正取引課の広報・広聴活動のうち、地方有識者との懇談会を御紹介します。



Q. 公正取引委員会と
地方有識者との
懇談会とは？



「どっきん」

A. 地域経済の実情を担う
有識者の皆様との意見交換の
場です。

公正取引委員会は同委員会の活動状況を説明し、競争政策についてより一層の理解を求めるとともに、各地の有識者の方々から幅広い意見、要望を把握し、それぞれの地域における経済社会の実情に対する認識を深め、今後の競争政策の有効かつ適正な運用に資するため、経済実態等に通じた地方有識者との懇談会を開催しています。

公正取引委員会委員との懇談会

令和6年11月20日、公正取引委員会の青木委員が来沖し、沖縄県では3年ぶりとなる公正取引委員会委員と那覇地区の有識者との懇談会を開催しました。



▲公正取引委員会青木委員との
懇談会の様子

公正取引課長との懇談会

令和6年度は、令和6年12月末日までに、左記表のとおり、公正取引課長と県内有識者の皆さまとの間で、それぞれ懇談会を開催しました。

懇談会開催団体等一覧 (令和6年12月末現在)							
7月22日	沖縄県中小企業団体中央会	8月13日	南城市商工会	9月12日	宜野湾市商工会	9月18日	沖縄県工業連合会
10月28日	沖縄県工業会	10月30日	沖縄県印刷工業組合	11月5日	二社 沖縄県建設業協会本部	11月6日	那覇商工会議所
12月24日	沖縄県中小企業家同友会						

各懇談会では、公正取引課長から、中小企業等が労務費を始めとしたコストの上昇分を適切に価格転嫁できるための取組を始め、令和6年11月1日施行のフリーランス法の概要など、公正取引委員会の最新の政策を説明しました。



▲公正取引課田中課長との
懇談会の様子

有識者の
皆様へ

懇談会（意見交換会）は随時開催受付中です！

- 懇談会のテーマ例：
ご希望のテーマに沿って説明します。例えば…
- 所用時間：60～90分程度
(30～60分：当課より説明、30分：質疑応答)
※ご要望に応じて時間調整可能
- 参加人数：自由
※少数のかた向けにも開催
- 開催場所：各種定例会議開催時に併せて開催可能
※対面とともにウェブでのご参加にも対応

公正取引課では、事業者団体様のニーズに合わせ、県内各地で所管法令に関する懇談会の開催や、講師派遣を行っております。開催費用は無料です。お気軽にご連絡ください。

お問合せ先 総務部 公正取引課 ☎ 098-866-0049

最近の懇談会のテーマとして

- ◆フリーランス法
- ◆労務費転嫁のための価格交渉指針
- ◆下請法・優越的地位の濫用規制

などがトレンドです！
懇談会にて、忌憚のないご意見・ご要望を
ぜひお聞かせください！



各懇談会に参加された方からは、地域・業界の実情、公正取引委員会に期待することなど幅広い事柄について大変貴重なご意見をたくさんいただきました。



北谷町まちづくりにおける 国有地の活用 ～北谷町立博物館完成～

令和6年11月19日、北谷町に対し売却した国有地（旧キャンプ桑江北側地区返還財産）に、町立博物館が完成し開館記念式典が行われました。北谷町では、町の歴史・文化・自然の継承・発信が課題となっていました。この度、国指定史跡の伊礼原遺跡に隣接して同町で初となる博物館を整備しました。

博物館は縄文時代の自然環境や暮らしを紹介した常設展示室のほか、歴史・文化・自然に関する書籍を備え、全国的にも珍しいクジラの骨格標本を展示したエントランスホール「北谷ウナ」などで構成されています。今後、町民や観光客などの利用が見込まれ、北谷町西海岸の観光地とも連携しながら、観光や地域のまちづくりのための活用が期待されています。

財務部は、引き続き地域の課題に対し国有財産の有効活用に取り組み、地域貢献に努めてまいります。

お問合せ先

財務部 統括国有財産管理官

☎098-866-0097



常設展示室



開館記念式典テープカット



高校生が財務大臣となって 予算編成！ ～in中部農林高等学校～

財務部では、小中学校、高校向けの出前授業として、タブレット等を活用した予算編集シミュレーションなど、アクティブラーニングを取り入れた「財政教育プログラム」を実施しています。今号では、令和6年10月26日、沖縄県立中部農林高等学校定時制の4年生（17名）を対象に行った出前授業をご紹介します。

（自分の将来のために） 日本の未来について考える

授業は、「日本の未来について考える」をテーマに、身近な公共サービスや公共施設の整備のため、税金や保険料を納める必要があることを説明し、令和6年度の歳入と歳入のうち、どの分野でどれくらいの予算が使われているのか、どのように予算を集めているのかを生徒たちに考えてもらいました。

予算編成シミュレーション

その後、生徒たちには複数のグループに分かれて、どのような社会にしていきたいのかテーマを決め、歳入を増やすための方策や歳入の充実と抑制について意見を出し合いながら、先生や財務部の職員も生徒たちと一緒に、日本の予算を編成するシミュレーションを行いました。

グループ毎の発表では、「教育分野の予算を増やすことにより、質の高い教育

を受けた子供たちが、日本の未来を良い方向へ引っ張ってくれる」、「子育てのしやすい環境を整えることで少子化を解消する」といった意見がありました。

生徒たちからの声

生徒たちからは、「財政について興味を持った」、「予算編成を通じて、自分ができるような社会を実現したいのか考えるきっかけになった」、「財政は自分の将来と関係していることがわかった」などの感想がありました。

今回、受講した生徒のほとんどが18歳以上の成人で、昼間は働いている生徒も多く、消費税や所得税の説明に熱心に耳を傾ける様子が見られました。財務部では、今後も教育機関と連携し、若年層に向けた出張授業を実施していく予定です。



財務部職員による
財政授業の様子



グループワーク（予算編成）で
議論する生徒たち

お問合せ先

財務部 財務課（地域連携担当）

☎098-866-0091

大学生が将来のために「財政」、 「金融」について考える ～in 琉球大学・沖縄国際大学～



▲「財政」の講義の様子：琉球大学

財務部では、地域の皆さまへ、財務省や金融庁の施策をお伝えするため、出前講座を実施しています。今号では、令和6年10月25日に沖縄国際大学（受講者数・120名）、11月14日に琉球大学（受講者数・約140名）で行った財政・金融の講義についてご紹介します。

財政の講義では、「これからの日本のために財政を考える」と題して、2024年度の予算を元に国の一般会計の歳入及び歳出についてお伝えし、30年前と比べ社会保障費が大きく伸びていること、その増加分を税収で賄うことができず、国の借金が増え続けていること、諸外国と比べると日本の社会保障が「給付（社会保障の支出）」に対して「負担（税・社会保障料）」が低く、高齢化等に伴う社会保障の給付の増加と国民負担の関係について、引き続き、国民全体で議論していく必要があることなどを説明しました。

続いて、金融の講義では、マルチ商法や詐欺被害などをきっかけとした多重債務・闇バイト等、「負のスパイラルに陥らないように」注意喚起を行い、金融トラブルを避けるための鉄則「おいしい話は気を付ける」、「怪しいと思ったらはっきり断る」、「トラブルに遭ってしまっても、決して諦めない」の3点の説明等の後、最近、社会問題となっている「闇バイト」に巻き込まれないための基礎知識を説明し、最後にトラブルにあった時の相談先「#9110」を紹介しました。

講義終了後の各大学のアンケートでは、以下のような多様な意見が寄せられました。

財政の講義では、「今後、経済の安定成長や持続可能な社会保障制度を実現するためには、国の借金や少子高齢化などの多様な問題を意識し、何ができるかを考えることが重要と思った」、「財政の問題は、他人事ではなく私たちの未来に直結する問題なので、ひとり一人が財政について関心を持ち、選挙を通じて自分の意見を反映させることが重要だと感じました」のほか「沖縄総合事務局で現役で働いている財政のプロの方からお話が聞けて良かった」等の意見がありました。

また、金融の講義では、「金融トラブルは、自分にも起こり得ることなので気を付けるようにしたい。また、



▲「金融」の講義の様子：沖縄国際大学

闇バイトの被害報道が増えていることから、自分も知らないうちに加害者にならないように気をつけたい」、「自分だけではなく、家族や友人に何かあったら今回教わった連絡先に相談したい」等の意見がありました。



▲「財政」の講義の様子：沖縄国際大学

財務部では、今後も教育機関と連携し、若年層に向けた出張授業を実施していく予定です。

財務部の出前講座については、左記連絡先までお気軽にお問い合わせください。

お問合せ先
財務部 財務課（地域連携担当）
☎098-866-0091

G F P 沖縄の取組

～沖縄からの農林水産物・食品の輸出促進に向けて～

農林水産省では2030年までに農林水産物・食品の輸出額を5兆円とする目標を設定し、輸出促進の取組を進めています。その取組の一環として、日本各地区にGFP(※)を立ち上げ、沖縄においても輸出に向けた生産者や事業者の支援をGFP沖縄として令和5年度から取り組んでいます。

GFP沖縄2024伴走支援プログラム説明会&マッチングを開催

輸出に取り組むに当たって、生産者や事業者では個々で取組段階が異なることから、今年度は取組段階ごとに輸出準備コース、輸出人材採用コース等、必要な支援プログラムを設け、令和6年8月26日に説明会&マッチングを開催しました。説明会では専門家からプログラムの具体的な内容を紹介し、参加者個々の課題がプログラムにマッチングするのを確認を行いました。9月からは各プ



説明会の様子

ログラムがスタートしており、伴走型に課題解決を図りながら輸出のステップアップに向けて動いています。

GFP沖縄輸出セミナーを離島で開催

県内離島からの輸出促進のため令和6年11月12日に石垣島、翌13日に宮古島にてイベントを開催しました。石垣島では「畜産」、宮古島では「かんしょ」に焦点を当て、各品目部会を開催し、輸出に関して県内外商社等からの海外現地情報の共有と意見交換等を行いました。また、全品目・食品を対象としたセミナーとグループマッチング・交流会では、商社の輸出担当者が専門家とともに各事業者の商品を手に取りながら輸出の可能性を探り、連携も進めました。このイベントが離島からの輸出のきっかけとなり、輸出促進につながるよう今後も継続的な支援を行ってまいります。

引き続き、個別事業者ごとの相談対応も行っております。

農林水産物・食品の輸出に課題を感じている方はお気軽に下記までお問い合わせ下さい。



石垣島・セミナー



また、GFP沖縄の公式LINEもあり、輸出を目指す皆様方のご登録をお待ちします。

お問合せ先
農林水産部 食料産業課
098-987-0582
GFP沖縄事務局

098-866-1673



局 GFP HP

GFP 沖縄公式
LINE 登録

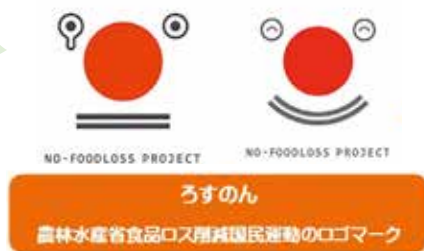
宮古島・マッチング



宮古島・かんしょ輸出部会

※GFPとは、Global Farmers/Fishermen/Foresters/Food Manufacturers Projectの略称であり、農林水産省が推進する日本の農林水産物・食品輸出プロジェクトです

食品ロスを減らすために



「食品ロス」とは、本来食べられるにもかかわらず捨てられてしまう食品です。

国内の食品ロスは、年間約472万トン発生（令和4年度）し、そのうち事業系、家庭系ともに約236万トンと推計されています。国民1人当たりになると、毎日、おにぎり1個（約110g）に近い量を捨てていることになり、年間にすると約38kgにもなります。

このような中、食品ロス削減に対する理解と関心を深めるため、食品ロス削減推進法に基づき、10月は「食品ロス削減月間」、10月30日は「食品ロス削減の日」と定められています。この食品ロス削減月間にあわせて、沖縄総合事務局における食品ロス削減の取組についてご紹介します。

食品ロス削減に関するパネル展の開催について

令和6年9月30日から10月4日まで、当局1階行政情報プラザにおいて、食品ロス削減に関するパネル展を開催しました。本パネル展では、食品ロスの国内及び県内の現状や「誰でもできる食品ロス削減」として、身近にできる食品ロス削減の取組、啓発資料の紹介、食品ロス削減国民運動ロゴマーク「ろすのん」や沖縄県の食品ロス削減県民運動ロゴマーク「のこSUN」の紹介を行い、来

庁者や職員の食品ロス削減に対する理解の醸成に取り組みました。



▲啓発資料の紹介



▲パネル展の様子

フードドライブについて

身近な食品ロス削減の取組として、買い物や調理における工夫等がありますが、それでも余った場合（未利用食品）は、その未利用食品を寄付する「フードドライブ」の取組があります。

当局1階にあるファミリーマート那覇第2地方合同庁舎店では、未利用食品の寄付を受け付ける「ファミマフードドライブ」BOXを設置しています。このたび、食品ロス削減月間の取組として、その取組を紹介するとともに、当局職員に未利用食品の寄付を呼びかけました。

9月30日から11月1日までの間に、缶詰、レトルト食品、飲料、お菓子など125点の未利用食品が寄付され、地域の協力パートナーを通じて、食支援を必要とされている方々へ届けられます。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



▲ファミマフードドライブBOX

お問合せ先

農林水産部 食料産業課

☎098-866-1673

窓

仕事の

沖縄県産黒糖の
消費拡大に向けて

～沖縄黒糖を活用した加工黒糖の取組～

黒糖をとりまく状況

沖縄においてさとうきびは、全耕地面積の約5割を占めるとともに、農家の約7割が栽培するなど基幹作物として県の農業経済を支えています。沖縄県内のさとうきびはほとんどが上白糖などの原料（粗糖）になります。黒糖・黒砂糖（さとうきびの絞り汁をそのまま煮沸濃縮・冷却し製造したもの）になるのは全体の約1割であり、現在、8つの離島（伊平屋島、伊江島、粟国島、多良間島、小浜島、西表島、波照間島、与那国島）で沖縄黒糖として製造されています。特に離島ではさとうきびを中心とする農業をはじめ、島ごとに特色のある黒糖製造や関連産業が重要な産業として位置づけられています。

このような中、令和3年頃においては、さとうきびの豊作と新型コロナウイルスによる黒糖の需要低下が重なったことで、沖縄黒糖の余剰在庫が課題となりました。このため、国、県、関係団体が連携し、余剰在庫の解消に向けてサプライチェーン調査や販路拡大等の取組が行われているところです。例えば、スーパーやコンビニでの沖縄黒糖を使用した沖縄ぜんざい、菓子パン、アイス等の販売やホテルでの沖縄黒糖を使用した料理の提供などの取組が行われており、好評を得ています。

一方、沖縄黒糖は、製造している地域の違いによる味の多様性が評価されている反面、水分の多さや味の違いがあることで、製品によっては原料として適さない場合があると考えられています。



八島黒糖（沖縄黒糖）

各島の土壌や天候、さとうきびの栽培方法などの違いが味や食感に反映されている

（参考）沖縄で製造される黒糖、加工黒糖、加工糖の違い

黒糖・黒砂糖 KOKUTO	加工黒糖 Processed KOKUTO	加工糖 Processed Sugar
さとうきびの搾り汁を煮詰めてそのまま固めた製品。 Made by pressing sugarcane, boiling it down, and then letting it solidify.	黒糖に、粗糖（原料糖/精製糖の原料となる分みつ糖）や糖みつなどを配合、加工した製品。 Products made by mixing raw sugar (the raw material for white sugar) or other ingredients such as molasses with kokuto.	粗糖（原料糖/精製糖の原料となる分みつ糖）や糖みつなどを配合した製品。 黒糖は使用されていない。 Products made by mixing brown sugar or molasses. KOKUTO is not used.
■表示例 名称 黒糖（または黒砂糖） 原材料名 さとうきび（沖縄県産）	■表示例 名称 加工黒糖 原材料名 黒糖（沖縄県製造）、粗糖、糖みつ	■表示例 名称 加工糖 原材料名 粗糖（国内製造）、糖みつ

出典：沖縄総合事務局 農林水産部

加工黒糖（黒糖に粗糖や糖蜜など他の原料を混ぜ合わせたもの）を使用することで、原料として使用しやすく、ニーズに合った商品開発がしやすくなります。このように、加工黒糖を活用することで、沖縄黒糖のさらなる消費拡大が期待できると考えられます。

（資）共栄社へのインタビュー



左：與那代表、右：與那会長

下、與那会長）、二代目代表の與那勝治氏（以下、與那代表）のお二人に話を伺いました。

―貴社の事業概要、創業のきっかけについて教えてください。

與那会長…沖縄県産さとうきび100%の黒糖、粗糖、糖蜜を原料とする加工黒糖を、伝統的な直火釜を用いて手作りし販売しています。1960年代に沖縄本島内の小さな黒糖工場が減っていく中、沖縄の伝統食である黒糖を守りたいという思いで1975年に創業しました。

―加工黒糖製造においてどのような点に力を入れましたか。

與那代表…口溶けを深く追求しました。原料となる粗糖、糖蜜の割合や火入れの加減、気温・湿度などの環境要因で食感が大きく変化します。熟練した黒糖職人が試行錯誤しながら製造ノウハウを作り上げてきました。

そこで、農林水産部では、沖縄黒糖を活用した加工黒糖で多様な商品づくりを行っている合資会社共栄社（今帰仁村）を訪ね、会長の與那森男氏（以下、與那代表）のお二人に話を伺いました。

(資)共栄社における
加工黒糖製造の様子



【袋詰め前の加工黒糖】
冷めたら袋に詰めて完成。
約 300kg/日の製造を手作業で行う。



【冷却・カット】
煮詰めた液体を引き延ばしながら冷却し、
長方形にカット、ヘラで剥がし手作業でひ
とつずつ切り離す。冷えると同時に固まっ
ていくため、タイミングよく作業する。



【煮詰め・攪拌】
県産さとうきびの絞り汁を煮詰めて出来た
粗糖・糖蜜に、沖縄黒糖を独自の配合で
ブレンド。高温の直火釜で攪拌しながら炊
き上げる。

直火での製造のため、火加減は職人の感覚によるもの。
若手職人さんに伺うと、技術習得まで2年を要したとの
こと。

「こだわりの製法を守り続けている
んです。加工黒糖を売り出すに当
たって苦労はありましたか。」

與那代表「弊社の加工黒糖は、純黒
糖に沖縄県産さとうきびを原料とす
る粗糖と糖蜜を加えて製造している
ため、沖縄県産さとうきび100%
の加工黒糖ですが、「加工」という言
葉から偽物扱いされることがあり、
そのイメージ払拭に苦労しました。」

「多様な加工黒糖を製造するようにな
った経緯をお聞かせください。」

與那会長「平成7年頃にテレビ番組
の影響で黒糖ブームが10年ほど続き
加工黒糖はよく売れましたが、その
後、大型の加工場で大量生産ができ
る競合他社が参入したことによって
苦戦を強いられるようになり、差別
化を図るため、多様な加工黒糖を手
掛けるようになりました。」

「商品開発や新たな取組について教
えてください。」

與那代表「粗糖、黒糖、糖蜜のみの
加工黒糖商品のほか、ゴーヤーやし
ょうがの粉末が入った黒糖商品などを
製造していましたが、コロナ禍の需
要低迷期に、新たな商品としてカ
シューナッツや大豆に加工黒糖をか
らめた「黒糖ナッツ」、口溶けの良い
ひと口サイズの「ソフト黒糖」を開
発しました。」

また、この「ソフト黒糖」にスペ
イン産カカオマスとコーティングし
た商品「ブレナ・スエルテ」(スペイ
ン語で「幸運をあなたへ」という意味)
を新たに開発・販売したところ、沖

縄島の優良県産品推奨事業のNEX
T部門で最優秀に選ばれました。外
箱の原料にバガス(さとうきびの絞
りかす)を使用するなど、沖縄らし
さにもこだわりました。」

與那代表「さらに、令和6年8月に
黒糖を使った沖縄ぜんざいをメイ
ンに提供する店舗「今帰仁黒糖スタ
ンド」を村内にオープンしたところ
なんです。」



【ブレナ・スエルテ】
カカオのほろ苦さと絶妙な口溶け
の加工黒糖がベストマッチ。季節
によって原料の配合も変更する、手
作りならではのこだわりの商品。



多様な加工黒糖商品



今帰仁黒糖スタンドの
黒糖ぜんざい

「幅広い取組ですね。沖縄県産黒糖
の消費拡大に向けてのお考えをお聞
かせください。」

與那代表「沖縄の離島では生産環境
に制限があり、さとうきびしか作れ
ない状況もあります。その中でいか
に黒糖の需要を増やしていくかが重
要と考えています。純黒糖も加工黒
糖も一緒に消費拡大を推進してい
たいです。今後も、黒糖の消費
拡大に向けて黒糖に関することなら
何でも挑戦したいと考えています。」

黒糖の消費拡大に向けて



與那会長と與那代表夫妻

取材にご協力いただきました與那
会長、與那代表に感謝申し上げます。
本記事では、伝統的な黒糖製造法
を受け継ぎ、沖縄県産さとうきび1
00%の原料を用いて加工黒糖を製
造する企業を紹介しました。加工黒
糖は、口溶けなど食感に変化をつけ
る、カカオマスや、ナッツ等の食材
と組み合わせるといった商品開発が
可能です。また、実需者のニーズに
応じた形状・味・食感を提供するこ
ともできることから、黒糖のさらな
る販路開拓、消費拡大が期待されま
す。

沖縄総合事務局農林水産部では、
関連団体と連携し、引き続きさとう
きびの生産振興及び沖縄黒糖の安定
供給、販路拡大に向けて取り組んで
まいります。

また、沖縄黒糖を含む沖縄の農林
水産業・食品産業に関する情報や農
林水産部の取組に関する情報を発信
してまいりますので部公式SNSや
部HPをぜひご覧ください。



部公式
SNS



農林水産部
HP

お問合せ先

農林水産部 農政課

☎098-866-1627



第50回 沖縄県畜産共進会が 開催されました

令和6年11月3日に第50回沖縄県畜産共進会が、南部家畜市場（糸満市）で開催され、沖縄県内から選抜された黒毛和種38頭の比較審査が行われました。外観から、発育や大きさ、品位などを審査した結果、特に優れた出品牛として、糸満市の前門真秀さんが育てた母牛と娘牛が農林水産大臣賞に選出されました。

部門	1席受賞者
若雌第1類	山城 義光（糸満市）
若雌第2類	吉永 安克（久米島町）
高等登録群	前門 真秀（糸満市）
肉 牛	農業生産法人（株）八風畑（南城市）
団体賞	糸満市（肉用牛）、南城市（肉牛）



農林水産大臣賞受賞牛

本会は、県内の優良な家畜を一堂に集め、その展示と評価を行うことで、家畜の改良増殖と飼養管理の改善を促し、畜産農家相互の研鑽と生産意欲の高揚を図ることを目的として、昭和49年から開催されている大会です。

第50回の記念大会となる今回は、乳搾りやヤギの餌やり等の体験イベントも実施され、晴天のもと多くの親子連れで賑わいました。



審査風景



ヤギの餌やり体験



沖縄総合事務局長祝辞

お問合せ先
農林水産部 生産振興課畜産振興室
☎098-866-1653



沖縄子ども食堂セミナー 「食育で考える子どもたちの未来！」

沖縄総合事務局では、令和6年12月13日に食育イベント全国キャラバンの一環として、「沖縄子ども食堂セミナー」食育で考える子どもたちの未来！」を開催しました。

第一部では、さくら教室（旧名護

こども食堂）の神谷様から地域のボランティアと連携して、子どもたちが安心して過ごせる環境の整備や、子ども食堂の自走に向けた取組について、また、オリオンビール株式会社との協賛から子ども食堂への様々な支援も含め、地域社会への貢献活動について、ご講演いただきました。

第二部では、お二人に加えて、子ども食堂の名付け親である一般社団法人としびあいだんだんの近藤様



パネルディスカッションの様子



ご登壇の皆様



フードドライブも実施しました！

にご登壇いただき、那覇市社会福祉協議会の浦崎様をファシリテーターにお迎えして、今後の子ども食堂での食育体験の広がりなどについてディスカッションしていただきました。

また、会場で実施したフードドライブでは、お米や缶詰、レトルト食品やお菓子など、145点の食品が集まり、「NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄」を通して、支援を必要とされている方や施設等へ届けられます。

お問合せ先
農林水産部 食料産業課
☎098-866-1673



沖縄の伝統食品

「豆腐よう」について

「協議会会長を訪問しました」

令和6年8月、県内の豆腐よう製造事業7社が「豆腐よう協議会」を設立したことが発表されました。これを機に協議会会長、事務局及び関係者の方々からお話を伺いましたので紹介します。

豆腐ようは沖縄独特の発酵食品で、琉球王府の祝い事などの料理に用いられた貴重な逸品とされており、今から約30年前、琉球大学農学部安田正昭教授（現在・琉球大学・沖縄大学名誉教授）により製法のメカニズムが解き明かされました。今では、お土産品などとして販売されています。製造事業者により「塩辛い腐乳を減塩し、日持ちするように泡盛を使用して漬けた先人の知恵は素晴らしい」とのお話がありました。

豆腐よう協議会は、HACCP（※）義務化に伴い沖縄県工業技術センターの呼びかけで、製造事業7社が集まり研究会を開催したことがきっかけで設立され、会長は株式会社琉球うりずん物産の久高代表が就任、事務局は海洋食品株式会社に設置されました。久高会長は、「10月24日に豆腐よう（とう）（10）ふ（2）よう（4）」



豆腐よう



事務局長、協議会会長

の語呂合わせでPRをしていきたい。各社独自の仕込み方によって、各社ごとに味の個性が違うのも魅力で、沖縄だけでなく全国の皆様にも味わっていただけることを期待している」と意気込みを語っていただきました。

※食品等事業者自らが食中毒菌汚染や異物混入等の危害要因（ハザード）を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去又は低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法

お問合せ先

農林水産部 消費・安全課
☎098-866-1672



次世代の子供たちに

建設産業の役割と魅力をPR

「第6回おきなわ建設フェスタ」

令和6年11月10日に、沖縄県総合運動公園（沖縄市）において、「第6回おきなわ建設フェスタ」が開催されました。



多くの方にパネルの展示を見ていただきました！

機械の試乗、測量やミニドローン操作体験といった各種イベントを親子で楽しんでもいました。

開発建設部からは、インフラ整備や防災、建設産業の取組に関するパネル展示や、ぬり絵体験コーナー（首里城やダムなど）を出展しました。130名を超える子供たちがぬり絵に挑戦するなか、保護者からはパネルの内容への質問も数多く出されるなど、盛況のうちに終了しました。



ぬり絵体験の様子

このイベントは、建設産業のイメージアップを図るため、次世代を担う子供と保護者に、建設産業の役割と魅力をPRすることを目的として、毎年、県内の建設産業関連団体が主催しております。今年は1万人（主催者発表）のご家族が来場し、建設

お問合せ先

開発建設部 建設産業・地方整備課
☎098-866-1910

安全保障貿易管理等説明会などを開催しました



安全保障貿易管理とは

昨今のグローバルな取引が拡大している中、提供や販売した貨物や技術が知らないうちに軍事転用され、大量破壊兵器等に使用されることもあります。そのような軍事転用等のおそれのある貨物や技術を外国へ提供や販売する際は、外国為替及び外国貿易法（略称：外為法）に基づき手続きを行う必要があります。

そうした内容をお伝えするため、安全保障貿易管理等説明会などを開催しました。

安全保障貿易管理等説明会

安全保障貿易管理等説明会は、令和6年11月28日に沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター研修室にてオンライン併用で開催しました。

本説明会では、オンライン参加を含む全国からの100人以上の参加者に対し、安全保障貿易管理の専門家より、入門編として、輸出管理とは何か、なぜ輸出管理が必要なのかなど、輸出管理が初めての方などに向けた説明を行いました。



安全保障貿易管理等説明会の様子

沖縄県内高等教育機関 安全保障ネットワーク 安全保障輸出管理勉強会

11月29日には、県内大学等の高等教育機関10団体が一堂に会した安全保障輸出管理勉強会を那覇第2地方合同庁舎1号館2階大会議室で開催しました。

国際交流が盛んな現代では、高等教育機関での留学生受入や教職員の海外での研究活動など、国際的な活動が数多く行われています。安全保障輸出管理は、国際的な活動を行う高等教育機関が果たすべき法令順守の1つと位置付けられており、リスク管理として、安全保障輸出管理の体制を整備することが求められています。

本勉強会では、経済産業省より、高等教育機関に求められている安全保障輸出管理の概要、中小規模の高等教育機関における体制整備の在り

方などを説明し、安全保障輸出管理の理解を深めました。さらに、各機関同士で安全保障輸出管理についての情報共有及び意見交換を行い、各機関での体制整備の一助となる勉強会となりました。



安全保障輸出管理勉強会の様子

やり取り

グローバルな活動が活発な昨今において、安全保障貿易管理は、身近なものとなっています。説明会及び勉強会が、参加された事業者や高等教育機関の皆さまの安全保障貿易管理の理解の促進につながることを期待しています。

説明会に参加できなかった場合でも、資料のご案内等は可能ですので、お気軽にお問合せください。

お問合せ先

経済産業部 商務通商課
☎098-866-1731

地域課題を解決！ スタートアップ企業向け 官民共創型アクセラレーション プログラムのご紹介



沖縄県は、開業率が全国一位であり、充実した情報通信ネットワークやテレワーク設備を活かしたIT分野や、亜熱帯特有の生物資源が強みになりうるバイオ分野など、スタートアップ創出にとって高いポテンシャルを有している一方で、様々な分野にわたって独自の地域課題を抱えています。

沖縄総合事務局では、沖縄県の地域課題の解決を目指すとともに、スタートアップ企業の県内への定着・成長により、沖縄県の産業を振興することを目的に、令和6年度沖縄型スタートアップ拠点化推進事業（地域課題解決型スタートアップ支援事業）を実施しています。

本事業では、県内自治体が抱える地域課題を共有するイベントを実施するとともに、沖縄の地域課題に向き合い、実証実験を通じて地域課題解決事業の開発に取り組むスタートアップ企業に対する事業支援、実証実験に共創して取り組む県内自治体とのマッチング等を含むアクセラレーションプログラム（スタートアップ企業に対する伴走支援）による支援を行っています。

先般、アクセラレーションプログラムへの参加募集を行い、予選審査を行ったところ、最終審査会に進む15社のファイナリストが決定いたしました。



県内自治体が抱える地域課題発信イベントの様子

下記のスタートアップ15社をファイナリストとして決定し、伴走支援を開始しています。

ファイナリストに選ばれたスタートアップは、令和7年1月17日に開催される最終審査会に臨むこととなります。プログラムの様子は官民共創型アクセラレーションプログラムのホームページにて随時更新しておりますので、是非ご覧ください。

お問合せ先

経済産業部 企画振興課

☎ 098-866-1727

官民共創型
アクセラレーション
プログラムの詳細はこちら
<https://gopitch-okinawa.go.jp/>



・Y・U・K・A・I・
・E・N・G・I・N・E・E・R・I・N・G・

NOBU Planning
THE COMMUNICATION TECH COMPANY

エンパワーサポート

VYORIUS

Sustain Happiness

ohana

INNFR

Perma Future

Okaraokara
でんろ屋さんとあんなら

RyuWell

kokoromil

kokoromil

MOTTAINAI
BATON

Furahi

CHILD SUPPORT

(※順不同)
ユカイ工学株式会社
株式会社 NOBU Planning
エンパワー・サポート株式会社
ヴィオリアス日本株式会社
株式会社サステインハピネス
株式会社 OHANA
INNFR 株式会社
株式会社 Perma Future
Okaraokara 株式会社
株式会社リュウエル
AnimaaaAI
株式会社ココロミル
MOTTAINAIBATON 株式会社
株式会社 Furahi
株式会社チャイルドサポート

▲ファナリスト 15 社



「第1回胡屋地区 交通結節点整備検討委員会」 を開催しました！

令和6年10月24日に、沖縄市の沖縄アリーナにて、「第1回胡屋地区交通結節点整備検討委員会」を開催しました。

本会は沖縄市胡屋・中央地区における公共交通・自動車・自転車・徒歩等の各種交通モード間の連携強化及び、沖縄市のまちづくりと一体となった交通結節点整備の具体化に向けた検討会の第1回として開催されたものです。

検討会には学識関係者、バスやタクシー等の交通事業者、商業等事業者、行政各関連部署等含めて、約30名が出席し、交通結節点整備の実現に向けて議論を行いました。

会議においては、沖縄市や沖縄県から、市・県の考えるまちづくりや人々の移動のあり方について、また南部国道事務所から当該地域のポテンシャルや課題、それらを踏まえた交通結節点整備の方向性についてそれぞれ説明を行い、望ましい結節点の実現に向け、それぞれのお立場から忌憚ないご意見を頂戴しました。

引き続き、交通結節点整備の方向性等を議論し、交通結節点に求められる機能等の検討を進めてまいります。



第1回胡屋地区交通結節点整備検討委員会の様子

お問合せ先

南部国道事務所 調査第一課
☎098-861-2336



「名護市総合交通 ターミナル検討部会」を 開催しました！

名護市と沖縄総合事務局では、名護市中心市街地まちづくりと一体となった「名護市総合交通ターミナル計画」の策定に向け、令和6年7月9日に第1回目の「名護市総合交通ターミナル検討部会」を開催しました。

第1回は、名護市を含めた北部地域における地域・交通の課題、ポテンシャルについて議論を行い、交通ターミナルの目指す姿及び基本目標を設定しました。その後、名護市総合交通ターミナルに求める機能や整備に対する意向等を把握するため関係者へのヒアリングや公共交通利用者に対してアンケートを実施し、調査内容をとりまとめ、令和6年11月12日に第2回目の検討部会を開催しました。

第2回では、名護市総合交通ターミナルの整備方針（素案）について、区域・施設配置の考え方について議論を行いました。

今後は、区域・施設配置計画や交通ターミナルの整備イメージ等について議論を行い、整備方針の策定を進めてまいります。



第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の様子

お問合せ先

北部国道事務所 調査課
☎0980-52-4350

将来の船員として活躍を期待！ ～中高生を対象に就業体験・ 体験学習を実施～



POINT

沖縄海事産業人材確保・育成推進協議会（事務局：沖縄総合事務局運輸部）は、若年内航船員の人材確保・育成のため、高校生・中学生を対象にバリエーションのある取組を行っております。

四面を海に囲まれた我が国において、船舶による海上輸送は、国民生活及び経済活動並びに観光振興等に欠かせないものとなっている中、今後の安定的な海上輸送を確保するにあたっては、海上輸送を担う船員の安定した確保育成が必要不可欠です。特に内航海運においては、年齢構成を見ると50歳以上の割合が5割程度と高い状況になっており、数年後には船員不足が生じると予測され、海上輸送を維持・発展させていくためには、若年内航船員の確保が喫緊の課題になっています。

沖縄県においても全国と同様の傾向があるため、沖縄海事産業人材確保・育成推進協議会では、内航船員



就業体験（乗船風景）

の仕事に興味を持つきっかけを作り、将来、職業として内航船員を選択してもらうため、各種取組を行っていきます。

高校生に対する取組としては、令和6年7月から10月にかけて沖縄水産高校、宮古総合実業高校の生徒を対象に県内の船社の協力を得て、内航船（貨物船、旅客フェリーなど）で「就業体験（インターンシップ）」を実施しました。参加した生徒からは「普段経験できないことを体験できた」「内航海運の仕事に魅力を感じた」などの感想がありました。中学生に対する取組としては、同



体験学習（シミュレーター体験）



体験学習（船員の仕事説明）

年7月31日に沖縄水産高校で、中学生のほか、保護者や教員も対象に、船員の仕事や資格についての説明や操船シミュレーター体験、実習船の見学などの「体験学習」を実施しました。また、11月11日には宮古総合実業高校の協力を得て、伊良部島中学校の生徒へ同様の「体験学習」を実施しました（操船シミュレーター体験を除く）。参加した生徒からは「船員という仕事に興味を持った」「船員になるために水産高校への進学を考えたい」という声もありました。

運輸部では今後とも、若年内航船員の人材確保・育成に向けた取組を積極的に推進していきます。



体験学習（実習船見学）

お問合せ先

運輸部 船舶船員課

☎098-866-1838



那覇第2地方合同庁舎3号館（南部国道は2F, 3F）
※隣の2号館には本局が入居



看板掲揚式



執務風景



コミュニケーションスペース



集中スペース

沖縄総合事務局南部国道事務所は、「那覇港新港ふ頭地区」にあった旧庁舎から、新たな街づくりが進む「那覇新都心地区」に建設された那覇第2地方合同庁舎3号館に移転し、令和6年11月5日より業務をスタートさせました。

新庁舎では、フリーアドレスも可能な什器類を揃えペーパーレス化・DX化等の推進を図るとともに、課

長席を廃止してコミュニケーションスペースやWeb会議用集中スペースの最大化を図りました。また、デスク・テーブル類は気持ちを和らげる木目調に統一するなど、業務の効率化に向けた職場環境が整えられました。

お問合せ先
南部国道事務所 総務課
☎098-861-2336



**南部国道事務所
新庁舎で業務開始！**
～気持ちのよい職場環境で
業務効率UPへ～

お知らせ Information



沖縄国際洋蘭博覧会2025開催のお知らせ



令和7年2月1日(土)～2月9日(日)、海洋博公園熱帯ドリームセンターにおいて「沖縄国際洋蘭博覧会2025(主催:沖縄国際洋蘭博覧会 実行委員会)」が開催されます。

本博覧会は、蘭の普及を促進するとともに、蘭の保全と花卉園芸の発展、芸術文化の創造、観光振興への貢献、そして都市の緑化と公園の活用促進を目的に開催されており、今回で国内最多となる第37回目を迎えます。

本博覧会では、国内外から出展された多種多様な蘭の鉢物や切花の他、フラワーアレンジメントやディスプレイなどたくさんの蘭の作品が展示され、その中から選ばれた最優秀賞には、国内で唯一「内閣総理大臣賞」が授与されます。

この他、館内では豊かな色彩と香りが楽しめる華やかな蘭装飾が各所に施され、来場者の心を癒してくれます。また、会場内では蘭に関するワークショップや子どもも楽しめるスタンプラリーなど、たくさんの関連イベントが開催されます。子どもから大人まで楽しみながら蘭に親しむことができますので、皆様のご来場をお待ちしております。開催概要は以下の通りです。

出展概要 ※沖縄国際洋蘭博覧会2023(R5.11開催) 実施結果より

【出展者】

国・地域別：国外:7か国2地域、国内:26都道府県、県内:18市町村

出展部門別：鉢物220名、切花16名、ディスプレイ19団体、

フラワーデザイン57名

【会場における蘭の展示総数】 22,600点

【関連催事】

ランに関する講演会、ランの栽培教室、ランの栽培相談コーナー、フラワーアレンジメント教室、いけばな展、特別展～沖縄に生きる野生ラン～、ランプレゼントクイズ、君もラン博士(スタンプラリー)、ボディジュエリー、展示即売会 など



2023 最優秀賞(内閣総理大臣賞)
ファレノプシス(胡蝶蘭)



館内装飾 ラントンネル【2023 同イベント】



OKINAWA INTERNATIONAL ORCHID SHOW 2025

沖縄国際洋蘭博覧会



沖縄国際洋蘭博覧会は1987年に始まり、今回で37回目を迎えます。
国内外の愛好家のランが一堂に会し、2万点以上の蘭が展示されます。



開催場所

海洋博公園 熱帯ドリームセンター

開催期間・開館時間

令和7年2月1日(土)～2月9日(日)
8:30～17:30 (入館締切17:00)

お問い合わせ

沖縄国際洋蘭博覧会 実行委員会 事務局

TEL:0980-48-3624

FAX:0980-48-3785



ぜんぶのいのちと、ワクワクする未来へ。



開催期間
2025年4月13日(日) - 10月13日(月)
開催場所
大阪 夢洲 (夢洲)
万博チケット

提供：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

